

石井 究 音 下 だ よ り

平成29年6月13日 (火) NO. 1

公開研究会を終え、自分の実践について振り返ってみました。3年次のまとめとして行った各教科の授業の成果と課題を共有し、4年次研究や日々の授業に生かしていければと思います。

<低学年→高学年へと変化していく表現の過程>

○1年生の実践「こねこねできたよ ゆめのなずなZOO」

様々な音（鳴き声や足音などに似せた音など）を聞いて、想像した生き物を粘土で表す。



音から生き物を想像する。(イメージは持つが、固まっていない)



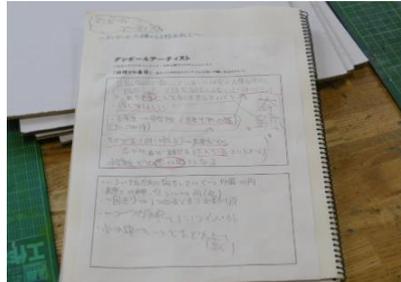
粘土をこねながら、つくりたい作品を思い付いて表していく。



話すことで自分の作品への思いを整理し、満足感を得る。

○6年生の実践「ダンボールアーティスト」

「仲間との毎日」というテーマから感じたことや伝えたいことを一枚の板段ボールに表す。



始めに自分の思いや表したいこと(主題)を持つ。(アイデアノート)



主題に向かって表現していく。(更に、材料と向き合うことで主題を表すための創意工夫をしていく。)



言葉で自分の作品について話すことで、込めた思いを整理し、自分の表現に意味や価値を見出す。

低学年・造形遊びを通して、材料に触れて遊んでいる中で自分がつくりたいものをはっきりとさせて表現に向かっていく。

高学年・始めに自分のつくりたいもの(主題)を持ち、それを表現していく。(表す過程で、思い付いた工夫を取り入れていく。)

造形遊びとは…材料と触れ合う中で自分がやりたいことを見つける活動

表現とは…始めにつくりたいものの思いを持ち、それに向かってつくっていく活動

<図工部としての言語活動 ～子供がつくっているときの教師の動き～>



作品を言葉の枠組みにはめ込んでしまうことで、言葉にできない印象や思いが切り捨てられてしまうときがあります。しかし、言葉にしてみることで自分の思いを自覚したり、言葉にすることで初めて作者の思いを知り、自分の感じ方との違いを交流することができたりするようになって考えています。

だからこそ、子供の活動の様子を見ながら「何をつくるのかな。」「先生にはこう見えるけど、○○さんはどう?」「どうしてこうしようとしたの?」など話しかけるようにしています。

図工室・図工準備室の使い方

- 図工室にあるもの（クレヨンやのりなどの道具、引き出しに入っているペンやテープ類、紙類など）は授業の際に使っていただいてもかまいません。【写真①】
- 図工準備室の棚にあるもの（ボンド、スプレーのり、ホッチキス、かなづち、カッターナイフなどの道具類など）は授業の際に使っていただいてもかまいません。【写真②】
- 図工室の後ろのロッカーにクラス名が書かれている棚があります。今週中に整理整頓しておきますので、クラスで作品を入れる際は、この棚をお使いください。【写真③】
- 図工準備室には図工部の教材研究のためのものや資料がたくさん置いてありますので、使いたいけれど使っていいかどうか迷うものについては、図工部員に聞いてください。
- また、「この紙つかってもいい?」「授業でこれ使いたいんだけど…。」「こんな道具ある?」などの疑問や質問も図工部員に聞いてください。



【写真①】



【写真②】



【写真③】

<お願い>

- 図工室や図工準備室には、子どもだけでは入りません。必ず先生と一緒に使うように御指導ください。（特に図工準備室には、のこぎりやカッターナイフなどの刃物があります。子供だけでは絶対に入れないでください。）
- 図工準備室の備品（テープカッター、はさみなど）がいつの間になくなって困っています。使った後は、必ず元の場所にもどしてください。
- 図工室は使い終わったら机を水拭きし、床をほうきではいて掃除するよう御指導ください。
- 図工室の椅子は、【写真④】のように上げてください。（机が傷つくため、ゴムの部分が机に当たるように上げる。4つの椅子が1つの四角形になるように、机の中央にそろえる。）



【写真④】

絵の具を使う際の机上の準備

※左利きの子供は置く場所が逆になります。

- ①筆はこもらないようにタオルの上に寝かせておく。
- ②画用紙の上方に絵の具を置くが、画用紙が大きいときは絵の具ケースにしまう。
- ③パレットは手に持つ。

（文責：大久保 達郎）